

## 授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
文学	日本の近現代文学はいかなる内実を持ち、そこにいかなる価値を見出せるのか。「文学」では、主として明治以降の詩歌、小説、童話など具体的な作品を概観しながら、文学の面白さやその価値にふれる。その際、作品個々にアプローチする方法を紹介し、学生自身が文学を主体的に読む姿勢を養う。また、映画やマンガなども教材として取り上げ、文学が周辺分野といかに関わっているのかも確かめる。それらによって、文学を分析するための観点を具体的に教授する。
脳科学と心	”見えてないものが見える”、”聞こえないはずの音が聞こえる”、”手で見る”、”鼻で味わう”、といった感覚の不思議さやヒトの認知・運動のメカニズムを知ることで人間の「心」の理解と脳科学が果たす役割について最新の脳科学の知見を交えて学修する。さらに脳に関係する病気（脳血管障害、てんかん、パーキンソン病、認知症）とその研究知見を神経科学的手法とともに紹介する。また神経神経（脳に関する迷信）問題について、課題発見解決型学習（PBL）を通じて、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。教養科目として体験活動も多く交えながらすすめていくので、「興味はあるけど難しそう」と思っている学生さんにこそ受講してほしい科目です。
保育原理	本科目は、保育者になるための最低限の知識、理論やスタンスを学習し、保育現場における原理と特性、環境、方法について理解していく。具体的には、特に保育思想とその歴史的変遷についてを中心的に学びながら、現代における様々な保育問題について理解する。そしてその上で、より実践的な視点から、保育者として、現場においてどう活かすのかを個々の学生に考えてもらうことをねらいとしている。さらに、保育の現状と課題や問題点、諸外国の状況についても言及する。
保育者論	本科目は、保育者という仕事の魅力ややりがい、意義や重要性、役割等様々な側面を理解するために、できるだけ実践の事例を取り上げて、講義を進める。幼稚園教諭、保育士を包括して保育者と理解したうえで、幼稚園教諭と保育士の違い、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士それぞれにおける保育者の基本的考え方やあり方について学ぶ。保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、保育者の専門性、専門職としての成長について学ぶ。加えて、幼稚園、保育所等からゲストスピーカーを招き、現場の保育者の専門性、成長、課題等について学ぶ予定である。
教育原理	西洋と我が国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想史的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授-学習の本質を理解する。さらにそれをおして正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。さらに、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授-学習の在り方を具体的に理解する。
発達心理学	・ 幼児、児童の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明する。 ・ また、発達障害を始めとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童の学習上・生活上の困難を理解し、対応していくために必要な知識や支援方法について説明する。
子どもの保健	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について講義する。保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深めていく。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について解説する。
教育保育課程論	幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。本科目は、幼稚園・保育所の教育（保育）がどのような道筋をたどって進められるかを、全体的な計画を示す教育課程（保育課程）と、それを具体化した指導計画について、具体例を示しながら講義を行い、各自指導計画の内容を理解し、作成方法を学ぶことを目的とする。また、保育の省察および記録、保育者の自己評価についても理解し、保育専門職の実践力を学ぶ。

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
乳児保育Ⅰ	乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児保育の歴史の変遷や母子保健の統計から現状を理解するとともに、保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて解説する。乳幼児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるため、低年齢児の保育の概念と意義、発達段階に応じた保育者としての関わりについて学びを深めていく。
プログラミング入門	この授業では、プログラミングを含む情報通信技術（ICT）全般について広く学ぶ。 最初に、MITメディアラボが開発したGUIベースのプログラミング言語Scratchを使用し、独自のアプリを作成する。また、作成したアプリについて発表する。 次に、プログラミングに関連する基礎的な情報技術や最新技術を調べ、レポートにまとめる。 最後に、Microsoft Power Appsを使用し、ノーコードによるアプリ作成を行う。
民俗学	民俗とは人々（民）の日常（俗）を捉えるための概念であり、民俗学はこの概念を通して人々の日常を考察してきました。授業では日本民俗学の基本的な視座や考え方、対象となる文化、分析方法等について講義します。
日本近代文学Ⅱ	近代の長編小説を題材に、自ら問題を発見しながら作品を読み解く方法と、その読解を説得的に他者に伝える力を養うことを目標とする。言葉の連なりが生み出す意味作用に対する洞察力や、物語の構造を把握する分析力を磨く。長編小説を講読することにより、物語がいかに小説を駆動し、小説がいかに物語から力を得ているか、具体的に講義する。
情報と社会Ⅰ	この授業では、社会、地域、または企業・団体が抱える課題・問題に対して、情報技術（ICT）を用いた課題解決：DX（デジタルトランスフォーメーション）のプロセス（解決案、仮説、検証、結果）を実践する。 最初に、DX、社会課題・問題、課題解決プロセスの概要について学ぶ。 次に、模擬課題に対する課題解決をステップバイステップで行い、一連のプロセスを理解する。 その後、実例を課題とした課題解決プロセスをチームで2回行う。実施後にプレゼンテーションを行う。  ※ 秋学期「情報と社会Ⅱ」では、実際の団体や企業の課題に対して仮説・検証を実施し、結果をプレゼンテーションする。